

卒業論文の要旨

論文題目	『格差と機会の平等』
氏名	嶋田 かゆ
メジャー	社会学
<p>(要旨)</p> <p>少子高齢化、低賃金、非正規雇用の増加、そして格差拡大。今の社会には解決すべき問題が山積みだ。私がこれらの問題に関心を持ったきっかけは大学内の講義である。マルクスに関する講義を受講し、「働くとは何のためなのか」と考えたことがある。そこから雇用問題などに目を向けるようになった。</p> <p>本論文の1章では生存権・賃金・男女平等・人口の4つの観点から、日本の現状における問題点を述べている。特定の産業の人件費削減率が高いことや、男性の雇用形態間の賃金格差が大きいことなど、より具体的な問題点があることがわかった。また男女平等について考える際には、女性だけではなく男性の立場も考慮する必要があることを強く主張したい。</p> <p>そして2章では前章で述べた問題点の要因について考えた。この20年で企業から株主への配当金は上昇しているにもかかわらず人件費が削減されているだけではなく、労働分配率の低下など低賃金に繋がる要因は様々である。また男女間における賃金格差には「年収の壁」と呼ばれる問題が大きく影響している。この壁により、多くの女性が非正規雇用を選択し、結果として男女賃金格差が生じている。だが女性の低賃金だけではなく、男性の長時間労働にも目を向けることも、新たな視点として各々が持つべきだと私は考える。</p> <p>また3章ではベーシック・インカムは格差是正の有効な手段であるかを考え、各企業が先述した諸問題を解決するために取り組むべきことを提案している。そして本論文では格差を是正するためには、教育・就職それぞれの面で機会の平等を実現することが重要であることを提案する。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>格差拡大と雇用就業・社会保障の諸問題は、現在日本社会が直面する最も重要かつ喫緊の課題である。しかし、貧困、格差が目に見えて拡大しているにもかかわらず、学会、メディアでの議論は十分ではなく、一般学生の関心も高いとは言えない。</p> <p>この論文で嶋田さんは、複雑な諸要因がからみあう諸問題に正面から取り組み、膨大なデータを整理して問題の本質を明らかにし、具体的な改善策を提起している。その分析は手堅く、示唆に富むもので、大学院レベルに到達しているといえよう。</p> <p>本人は労働環境の厳しい業界への就職が内定しているが、卒論を通じて学んだ知見を活かし、将来社労士等の資格取得も考えているとのことである。本学の「学時事人」の精神を体現した学びの成果であり、優秀卒論として推薦する。</p>	

